



# 東京多摩プロバスニュース

第 107 号



■事務局: 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮 1-17-18 登坂征一郎方 ■電話: 042-375-5878

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2023. 7. 5.

## 共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

### 第 227 回 定例会

日時: 令和 5 年 5 月 10 日(水)午後 1 時 30 分より

場所: 関戸公民館 8 階 第 2 学習室

出席者: 12 名 (会員数: 18 名)

### 第 228 回 定例会

日時: 令和 5 年 6 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場所: ザ・スクエアビル 3 階 会議室

お客様: 瀬尾 日出男会友

出席者: 12 名 (会員数: 18 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



### 津軽の旅

2023 年 (令和 5 年) の初夏、8 人兄弟中、男 5 人の内、末次から 3 人組みが、20 年ぶりに新幹線の北の終点、函館北の杜の温泉宿で会食を試みた。専ら毛ガニや足長カニを腹の中に納まっているが、兄弟の一人が新型コロナに汚染され会食は無念にも中止になった。人生終焉の旅は簡単に中止する訳には出来ませんので、その代わりに、娘の嫁ぎ先の岩木山の周辺の旅をはじめることにした。

#### 参考文献から

青森県にはとくに岩木山の北西側にリンゴ畑の分布が著しい。津軽の鶴田町・鶴の舞橋 (既設の農業用の灌漑していた池が存在していた) は平成 6 年 7 月 8 日、岩木山の

高村弘毅会長



鶴の舞橋

雄大な山影を湖面に美しく映す面影が想像されていた。そこに、鶴のつがいを育養し、現物に鶴の舞橋を津軽のヒバで作製した物を拝見した。津軽富士見湖に、日本一長い三連太鼓橋「鶴の舞橋」としてかけられたものである。全長 300m もの三連太鼓橋はぬくもりを感じさせるような優しいアーチをしており、鶴の国際交流の里・鶴田町のシンボルとして、多くの人々に愛されている。

## 1. 幹事報告

小島明幹事

- 1) 20期総会時の会員は12名の予定となります。
- 2) 6月29日(木)GMG八王子カントリーで多摩3プロバスクラブで合同ゴルフコンペが行われ、当クラブから2名が参加しました。
- 3) 会員数も少なくなり、会費も限られるため来期は緊縮財政で行いますので、宜しくご協力の程お願いします。

## 2. 委員会報告

### 2.1. 総務委員会

藤寄喬子委員長

- 1) 第227回定例会：5月10日(水)  
 関戸公民館 8階第2学習室  
 ・出席者：12名 (会員数18=会員15+休会員3)  
 ・誕生祝い5月：永田宗義会員 小島明会員  
 ・フリートーク  
 ・卓話：「研(こだま)句会と私」登坂征一郎会員  
 詳細3頁参照

- 2) 第228回定例会：6月7日(水)

ザ・スクエアビル3階会議室

- ・出席者：12名 (会員数18=会員15+休会員3)
- ・フリートーク：総会(7月5日)を控えてetc.
- ・卓話：「あの日あの時 第2弾」瀬尾日出男会友  
 詳細4ページ参照

### 2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

- 1) 19期最終月となる6月16日(金)、立川基地跡地である立川市緑町の国立極地研究所「南極・北極科学館」と国文学研究資料館の研修見学事業を実施しました。当事業は、新型コロナ感染禍である18期の計画事業でしたが、この度ようやく実施できました。当日は梅雨時期でありながら初夏のようなお天気の中、有意義な研修見学と食事処はパレスホテル立川にて楽しく会員の交流親睦が行われました。 詳細5ページ参照

### 2.3. 地域奉仕委員会

秋山正仁委員長

- ・多摩市福祉協議会のボランティアセンターに切手・テレホンカード・ハイウェイカード等を引き続き寄付しました。今後とも、ご提供をよろしく願います。
- ・「ワールドキャンパス」活動を支援します。

### 2.4. 広報委員会

伊藤健一委員長

- 1) プロバスニュース107号を7月5日に発行・配布予定。ご寄稿いただいた方々に心より感謝申し上げます。
- 2) ホームページの更新公開は上記ニュース発行後に予定しています。
- 3) 会員、会友の皆様からのご寄稿を随時募集いたします。(私と多摩・我が故郷・私の趣味・私の一品・対外活動・旅行記・エッセイなどテーマは自由です。400～1000文字)
- 4) 総会をひかえ、広報委員会の19期活動報告、20期の活動計画、予算案などを検討、作成した。

## 2.5. 会員委員会

小林務委員長

このところ数年コロナ禍と会員の高齢化により会員の退会、休会が多く見受けられます。それぞれが会員増強と募集に努力はしているものの現状は残念ながら減少傾向にあります。この現象はどこのサークル、団体、自治会などでも同じような現象が見受けられます。現有の会員一人一人が気心の知れた友人の勧誘と多摩広報誌を初めミニコミ誌に募集広告の掲載など幅広い会員増強のための施策の実行に一丸となって取り組みたいと考えます。

## 2.6. 事務局報告

登坂征一郎会員

- 1.1. 東京八王子PC プロバスだより 第329号  
 \*池田ときえ会長あいさつ；「少しずつ動く」の実行。  
 \*幹事報告；「運営費小委員会」収入に見合った活動を  
 \*八王子市立小中学校音楽祭の報告
- 1.2. 東京八王子PC プロバスだより 第330号  
 \*全日本プロバス協議会次期会長、第11回総会の件  
 ・次期会長・幹事長に旭川PC、第11回総会・大会場所に五所川原PCで24年8月8日に内定。
- 2.1. 東京日野PC プロバスだより 第147号  
 \*ゴルフ同好会、麻雀同好会の活動報告
- 2.2. 東京日野PC プロバスだより 第148号  
 \*「渋沢栄一記念館・富岡製糸場」視察・研修
- 3.1. 埼玉浮き城PC 第142号  
 \*木島隆夫会長スピーチから  
 ・山本五十六海軍大将への懐古  
 \*高橋晋作氏；源氏物語から、「語り」の時代から「読書」の時代へ(印刷技術の発展)  
 \*森田良英氏；ChatGPTを調べてみました。  
 \*鈴木民儀氏；埼玉の地域ごとの気象について
- 4.1. 大阪PC 会報 第379号  
 \*西宮富夫氏の卓話「縄文時代の新仮説紹介(東北大学名誉教授田中秀鞭氏の仮説)」  
 ①人類の移動：太陽が昇る場所を求めて、②縄文土器はすでに芸術、③高天原は関東に実在した。伊勢神宮、香取神宮、鹿島神宮3つのうち2つが関東にある。「房総の古墳と埴輪」の武人の埴輪、弓月君が3世紀末朝鮮半島から渡来した秦氏の基(弓月はイスラエルの祖先が居住していた地域)
- 4.2. 大阪PC 会報 第380号  
 \*花外楼・大阪証券取引所設立・五代邸など、幕末～明治の大阪の歴史的建造物の話
- 5.1. 旭川PC 会報(絆)第213号  
 \*全日本プロバス協議会 次期会長に 馬場康博氏、次期幹事長に中田雅昭氏
- 6.1. 多摩市国際交流センター ふれんどりーたま News 4月号No.239  
 \*この国どんな国シリーズ 「チリ共和国」

## 俳句会と私

### 登坂征一郎会員

○当クラブで俳句を始めたのは2006年11月1日、「多摩の秋を歩こう会」であった。歩くグループと大谷戸公園で芋煮を準備するグループの二手に分かれ行われた。歩くグループは、晩秋の装いの街路樹、横山の道、明治天皇行幸の記念館を経て大谷戸公園で芋煮グループと合流。記念館では、小磯会員の出展した菊花展が芳香を放っていた。

落葉踏み古しえを知るよこやま路 岡野 一馬  
菊の香をはこんでわたる谷戸の風 山田 正司

芋煮グループは、キャンプ場の大谷戸公園で、煙に咽びながら芋煮づくりに奮闘。小磯会員の手なる新鮮な野菜、上田会員の前日の釣果の鱈などを煮込んだ芋煮が待っていた。芋煮会は様々な思いを詰め込みひたすら食した。食後、短冊に俳句を書き込み、木の間に張った麻紐に短冊を釣下げ、合評に入り句会が催された。当クラブの初めての俳句へのアクセスであった。とにかく、五七五の体裁が主体の俳句ながら個性豊かな句会を楽しんだ。

第2回の多摩の秋を楽しむ会は、翌年の2007年11月14日に催された。第1回同様、歩くグループと芋煮グループとに分かれ、芋煮を堪能後の吟行会では、季語の有無・ダブリなど好評・酷評が飛び交い、傑作揃いの中から平田会員の句が天賞となった。

秋深し往時を偲ぶ見附橋 平田 哲郎

この芋煮会と吟行会では、全員が挑んだ俳句への興味が高まったものと思う。

### ○多摩市中学生俳句大会と「俳句の会」の発足

この頃、多摩市中学生俳句大会が東京多摩ロータリークラブ主催、多摩市と当クラブ後援で開催されていた。審査委員長には「からまつ」俳句結社主宰の由利雪二先生が携わっておられ、雪二先生と当クラブの蓮池守一会長は、東京都の教育分野で知己の關係にあり、そのご縁で中学生俳句大会の選考や優秀作品に東京多摩プロバスクラブ賞などが設けられた。この中学生俳句大会は第14回で惜しまれながら完了した。

主宰から当クラブにも俳句の会を設けてはとの勸奨もあり、俳句の同好の士が集まり、2007年8月3日第1回の「俳句の会」が、15、6名で発足した。

池田寛会員と蓮池守一会長が世話人として「俳句の会」のとりまとめを頂いた。幸いなるかな、由利雪二先生と石川春兎先生のご指導を仰ぐことになった。

発足からこの間、コロナ禍での紙上句会を含めこの5月で190回の句会を重ねてきた。その間、体調不良など会員の出入りがあり、現在はクラブ外からも含めて8名となりましたが、毎回俳句論議の句会を楽しんでいます。

また「俳句の会」の名称は、会員の総意で2009年7月に「俳句会」となった。

○雪二先生から特に指摘されたことは、「俳句の会」のメンバーの大半は会社勤めで、「発想が理屈っぽい、理屈ではな

く右脳を使いなさい。俳句の中七は七文字に、上五・下五の字余りはOK」と厳しく指導された。季語は勿論その時期にあったもの、歳時記を読んで季重ねはしないこと、景が浮かぶように言葉、語順を推敲すること等々、基礎をみっちり、面白おかしくご指導頂いた。

### ○俳号について

初めての句会で、雪二先生開口一番「俳句の会には本人名では味気ない。俳句の会では俳号で呼び合しましょう」と俳号を次つぎと決めて戴いた。また、途中入会の方も句会の初めに俳号をつけて戴いた。

その状況は「好きなものは何ですか」と聞かれて「庭のお気に入りの鬼胡桃の木が台風で倒れてしまった」と話すと「胡桃がいい。それに子をつけよう。胡桃子では如何と」。「何が好きですか」「魚です」「じゃあ水をつけて魚水さん。こんなやり取りで概ね俳号が決まる。「山歩きが趣味です」「じゃあ岳に人を付けて岳人では?」「春風を以て人に接し、秋霜を以て己が身を慎む」がご自身の人生観と話すと「秋霜がいい」と。「越冬隊員の主人からのプレゼントが南極の氷だったの」から「氷子さん」。「萩枝か露枝ではどうでしょう?」「露枝がいいです」。

自身で俳号を決めたのは「志水さん」。同じく「玄海」さん。唐津の生まれで玄界灘の玄界を海に。「爽風」も爽やかな風のイメージにしたいと自身で。最近入会された句友で、出身の新潟市は柳の街で「柳都」から「柳人」さん。好きな色が紫なので「紫水」さんと。俳号ではこそばゆい感じで、始めは借り物の感じだが慣れてくると自分の顔になるから不思議である。句会の披講で「〇〇です」と名乗るのに淀みがない。

### ○俳句会とからまつ俳句結社

会発足以来、からまつ主宰由利雪二先生のご指導により、数か月後には、からまつ誌の兼題一句集から徐々に投句を促されて他流試合の試練に乗り出した。

また、結社への入会については、自己判断で決めて俳句を長く継続したい会員は入会をして、今では俳句会はからまつの有数の句会となり、結社運営の役割を担っている。

### ○からまつ山河賞への挑戦

からまつ俳句結社での同人・会員の實力を競うもので、

2016年度山河賞首席 蓮池秋霜さん

次席 増山胡桃子さん

2019年度山河賞首席 増山胡桃子さん

2021年度山河賞首席 増山胡桃子さん

が受賞され2回の受賞はからまつ山河賞では初めてのこと。

### ○こだま句集の編纂と上梓

2018年から、各自、1年間のお気に入りの12句を句集にまとめ、「こだま」集として第5集まで編纂上梓した。俳句が日常の記録になって、これもまた俳句継続のエネルギーとなっている。妻退院の際の筆者の一句

八十路越えて妻に初めて赤い薔薇 登坂爽風

「あの日あの時(第2弾) ダービーの思い出」

瀬尾日出男会友

風香る緑のターフ(芝)が眩しく眼に染まるこの時期の楽しみは、若駒三歳馬の最高の晴れ舞台、日本ダービー東京優駿GIが5月28日府中の東京競馬場で開催され、いつもの通りの沢山のファンで賑わい、熱気を呈した。



特に今年は90回目の節目にあたり、3年前に生まれたサラブレッド約7,700頭の中より、それまでの厳しいレース・条件等選ばれし18頭で若駒の頂点を目指し一生に1度限りのチャンスを迎えたのだ。諺に“国の宰相になることよりも、ダービー馬(馬主)になることの難しさ”そのものである。

まさか今年のレースは誰しもが予想だにできなかったアクシデント、衝撃的なシーンを観ることになったのだ。

私が初めてダービーを観たのは、半世紀以上前の1960年コダマが優勝したレースであり、当時特急こだま号が登場した時代である。その後数多くのダービーを楽しんできたが、今年ほど驚きと悲しみのレースを見た記憶はなかった。

もう少しで距離2,400mを走り抜こうとゴール直前、急に減速スピードダウン、名手ルメール騎手を背にふらつきながらもゴール板を過ぎ、同騎手が下馬するのをあたかも確認したかの如く、力尽きて倒れ込んだ。急性心不全でその場で息引き取ったのだ。

場内は一瞬静まり、重苦しい雰囲気と悲鳴とに包まれた。転倒せずに騎手を怪我から守り、馬の頭を撫で優しく介抱する騎手との絆を目の当たりに



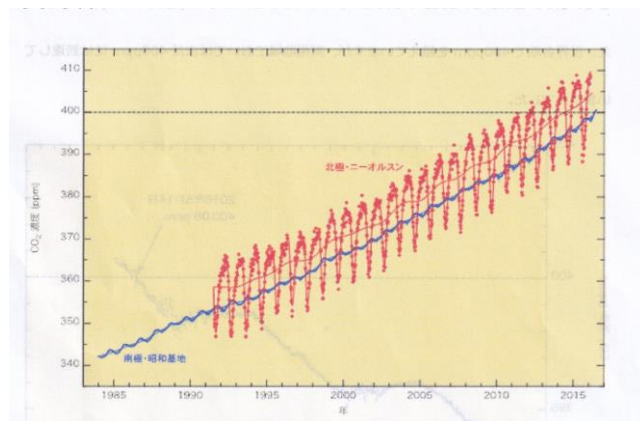
涙するファンも忘れることのない光景であった。

走る為に生まれてきた競争馬サラブレッドがレース中の故障等で予後不良、安楽死(殺処分)になるケースはよくあるが、大レースの中の事故は珍しいことだ。

私の記憶にあるのは1967年キーストンの阪神大賞典ゴール直前、前足骨折による転倒、騎手は落馬、痛い足を引きずりながら近づいて鼻先でこすり起こしたシーン。名競馬アナの杉本清氏が“動くなキーストン、そのままキーストン”と叫んだ声を思い出した。騎手は愛馬の予後不良を察した。もう一頭はテンポイント、1978年の冬(1月)日経新春杯で66キロの重いハンディーで出走、最終コーナーで故障発生、競馬ファンの願いも空しく二ヶ月後に安楽死処分となった。こうして観てくると競争馬が「無事は名馬」として役目を終え、生まれた故郷(牧場)に帰り次の世代に引き継ぎ残して行くこと、まさに競馬はブラッドスポーツ(血統)と呼ばれる所以なのではないでしょうか

北極南極科学館訪問記余話 登坂征一郎会員

6月16日、当クラブの研修・親睦委員会主催の見学会で、立川市にある国立極地研究所の北極・南極科学館を見学する機会を得た。特に興味を持ったのは、南極の氷床のコアサンプルに閉じ込められた空気から、太古の大気の成分が分析されていることや、南極と北極における大気中の二酸化炭素濃度の長期変動で、右図に示されるように南極におけるCO2の経年変化は直線状に右肩上がり(青線)、北極では北半球の植物のCO2の吸収の季節変動の影響(赤線)が出ている。更には2015年の大気中のCO2濃度が400ppmを超えることが示されていた。温室効果ガス世界資料センターの解析によると2021年の大気中CO2世界的平均濃度は、前年度に比べ2.5ppm増えて415.7ppmとなっている。また、工業化(1750年)以前の平均的な値とされる約278ppmと比べて49%の増加とのこと。地球温暖化の主因とされている大気中のCO2の濃度の増加は、現実に私たちの生活の上に色々な面で影響を及ぼしてきている。気温の上昇、近海海水温の上昇による台風の大規模化や猛暑日の増加、大雨となる日数の増加など危機感を覚えざるを得ない。これらの温暖化の影響として近い将来穀物収量の低下、水稲・果樹



南極と北極における大気中の二酸化炭素濃度の変動

の品質低下、家畜への影響、魚介類の漁獲量の減少と変化など新聞紙上で頻りに目にする。また身近には、桜の開花日の早期化やサンゴの白化など、じわじわと温暖化の脅威が迫ってきている。CO2排出の約2割は私たちの生活からということです。最近の夏日、真夏日には熱中症防止に空調は欠かせませんが、スイッチのオンオフに躊躇すること暫し。温暖化防止に老骨にむち打って、省エネの努力と知恵を出していくしかないのではないかと……。

## 1. 国文学研究資料館

伊藤健一会員

6月16日、モノレール高松駅で下車し、昨年暮れにコロナに罹った時にお世話になったので、見覚えのある立川の酸素ステーションを横目に見ながら、国文学研究資料館に到着した。



同館は、2008年3月に東京都区部の過密解消、東京への諸機能の過度の集中抑制などのために、品川区から現在の立川市に移転したようだ。同館には、展示室と閲覧室があり、今回訪れた展示室では、「和書のさまざま」と題して様々な和書が展示、解説されていた。和書は、1200年以上の長い歴史を持ち、種類の多さと現存する点数の多さは世界的にも稀とのこと。

「和書の形態と素材」のコーナーでは和書が何を素材にして、どのように作られているか、「和書の構成要素」のコーナーでは、和書を構成するさまざまな要素について、「さまざまな本」のコーナーでは、長い歴史を持つ和書の中から各時代の写本や版本、資料などが紹介されていた。一通り見て回った後、受付の職員の方に、親切に説明をいただいた。

和書資料の保管など、様々な苦労があるようです。温度と湿度の調整や展示室を暗くしているのは、資料の劣化を防ぐためとか、和紙の劣化の原因になる虫の問題など。先人のさまざまな苦労があって、千年もの長い間、無事に保管され、今このように和書を目にすることができるのだ。今回の訪問で多少でも古典に親しみを持つきっかけになったのかなと思う。



最近、源氏物語をKindle 無料青空文庫版で読み始めたので、読了しよう。

## 2. 「南極・北極科学館」見学記

酒井善夫会員

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所「南極・北極科学館」を訪問した。



多摩モノレールの高松駅に降りると、ヘリコプターの轟音、陸上自衛隊立川駐屯地。その東部の広大なエリアに立川市役所、地裁、自治大学や国立国語研究所など、官営の諸施設が散在する。その一角にこの科学館がある。

国立極地研究所は9月で創立50周年を迎え、科学館は2010年の開設。入館し、まずは「南極に触れた！」入口左手に、南極の水が置かれているのだ。南極観測隊が持ち帰った約1トンの氷の一部、本物の南極の水である。それは、南極の雪が押しかためられ、氷に変化したもの。空気を含んだ氷がとけるときの、気泡がはじけてぱちぱちと音がするらしい。長い年月をかけて氷になる

南極の雪。氷の中に閉じ込められているのは、太古の空気であるという。冷たい！1万4千キロ彼方の昭和基地の空気、地球の太古の成分に触れる体験ができた。無料です……。入口の先には、映像の案内も含めて、思わず見入ってしまう、創意工夫に溢れた展示物が続く。瞬く間に時間が過ぎてゆく。

最後に入口を出て左手にある機械で来館記念スタンプを押した。



## 3. 国立極地研究所「南極・北極科学館」を訪ねて

片倉 満会員

ここでは、地球の過去と未来を読みとく貴重な資料が展示されている科学館となっています。(館の配布資料から引用)



子どもの頃学んだ白瀬中尉の南極探検は1912年。現在はそれから100年以上となります。科学館入り口付近では、地球の過去を保存したタイムカプセル、氷床コア掘削が入り口付近に陳列されています。南極大陸を分厚く覆う氷床に百万年以上にわたる気候変動の痕跡が隕石、CO2等の存在・分析からわかります。その氷、岩盤を掘削するボーリング機です。更にこのエリアでは雪上車、ペンギンの剥製、昭和基地のジオラマ、観測船「宗谷」「しらせ」の模型等々、見ごたえのある展示物がありました。オーロラを見るプラネタリウムもあります。

北極展示エリアではホッキョクグマ、アザラシの剥製、犬嚙、野生動物の行動記録用の電子端末データ等々が展示されており、北極の氷が消える異常気象に警告をも発しております。

極地の観測は人間だけでなく動物の活躍もありました。1956年(昭和31年)、日本の南極大陸観測隊に同行したカラフト犬の兄弟、タロ・ジロ達15匹の犬の雄姿、彫刻物が庭園にあります。当時の越冬隊とタロ・ジロ達の南極観測の活躍は映画『南極物語』となりました。

科学館の入場料は無料です。是非一度、見学されませうことをお勧めいたします。以上



蛭二十日で蟬三日

(一) 中国の晋時代、車胤(シャイン)が、蛭を数十匹、袋に入れ、その明りで読書した。また同時代に孫康が窓に反射した雪の明りで勉学に励んだと云われる故事により「蛭雪の功」の語が生まれたと伝えられている。私が最近買った雑学王と云う単行本に、読書するには左右の袋に蛭を1000匹ずつ入れねばならぬ、と出ている。

私と蛭との思い出は、洗足の赤松尋常小学校、三年生の頃だ。朝顔柄の浴衣に三尺帯を蝶々に結び、素足に下駄で、暮れなずむ近くの洗足池に行き、友達と一緒に、手で五、六匹捕まえ、勇んで家の蚊帳の中に放す。蚊帳裾が青い空色で上の方が白かったなど懐かしい。今は蚊帳を知らない子供達がいるだろう。一頻り追いかけてこ後、母の可愛想だから放しなさいの声で庭に放す。

生き物とのやりとり、戯れ合う楽しさを子供心に刻まれた。

阪東熙子会友



(二) 蟬について、国文とか古典に登場する蟬の事柄には強いが、昆虫の蟬は怖い、嫌いだ。若い頃、蟬が鳴いている大木の脇を通り抜けようとした瞬間、一斉に飛び、私の背中、頭の上袖等に、十五、六匹停まり、怖かった。今でもコンクリートで仰向けになってると遠回りする。しかし、神神しい脱皮の一部始終を大橋茶寮の中庭で、凝視してから、雪山偈の初句通りの、諸行無常の真実のあかし、三日で命立つ蟬をしたわしく思う様になった。

梅雨明けには蛭も飛びかき、蟬も鳴きだす此の地多摩は、緑も豊か、人の心も豊かでありたい。いつまでも。

- ① 赤松尋常小学校で私が六年生の時、黒柳徹子 一年生に入学。
- ② 大橋茶寮は、今年百歳の裏千家家元が昔、東京稽古場として使っていた料亭。主の大橋宗乃先生は私と同じ96歳、憧れの茶友。建物は都の文化財建造物。今も文通有り。虎ノ門5-6-6。
- ③ 狩衣(かりぎぬ)の袖のうら這う蛭かな 蕪村  
蟬の羽の単衣にうすき夏ごろも 古今集卷十九  
大蛭、ゆらりゆらりと通りけり 一茶

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

5月誕生日をむかえられました！



左から小島明会員、永田宗義会員

小島さん；71歳になり、あと10年はゴルフができればいいなと思うところです。

永田さん；思いやりのあるお付き合いを誰とでもしたいと思えます。

東京多摩プロバスクラブの会員募集中！

プロバスクラブで充実した人生を過ごしませんか？  
知識・友情・活気に満ちたクラブ活動を一緒に楽しみましょう！

興味深い講演や楽しいイベントが盛りだくさん！  
国内の他プロバスクラブとの素晴らしい出会いや、  
世界中の仲間との交流を楽しんでください！

ご希望により定例会等の見学もできます。

対象(原則)：多摩市または近隣にお住まいの方で、  
女性50歳以上、男性60歳以上の方

お問い合わせ：事務局、登坂征一郎迄  
TEL：042-375-5878  
email:sei.tosaka@nifty.ne.jp

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

6月16日に研修・親睦委員会主催で立川の「南極・北極科学館」と「国文学研究資料館」を訪問した。いずれも国の研究機関の施設で充実した展示をしている。

特に、国文学研究資料館は、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構を構成する6機関のうちの1つ。国立大学法人総合研究大学院 大学文化科学研究科 日本文学研究専攻が設置されている。国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者が利用し、またそうした先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関だそう。古典籍や近代文献のマイクロ資料20万点、原本資料2万点、活字資料19万冊、歴史資料502件(52万点)を備え、約30のデータベースを公開し、随時更新している。資料館では、1200年以上に及ぶ歴史を持つ和書を通常展示している。こうした日本の国文学関係資料が管理・保管され、研究されていることは凄いことだ。

107号を迎えたプロバスニュースも、活字の歴史記録である。誕生日祝い一言メッセージの25字からして、プロバスクラブの歴史資料として後世に残されるのである。紙として、デジタルデータ・PDFとして。私たちの死後、誰かがきつと読むことがあるに違いない。その未来のプロビアンに語り継ぐように、プロバス編集員は今回も制作に汗している。猛暑の夏に！

後世に向けて、しっかり校正しながら、楽しい紙面構成も企画して行きたい。

(広報委員 酒井善夫会員記)